

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600455		
法人名	社会福祉法人十和田湖会		
事業所名	グループホームきゃんぱす		
所在地	〒034-0041 青森県十和田市大字相坂字小林76-5		
自己評価作成日	令和2年9月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・園芸に力を入れており、天気の良い日には散歩に出て外気浴をしながら花や野菜の成長を楽しんでいる。収穫した野菜を食材として活用している他、施設内行事にて収穫祭を開催することで、季節を感じて頂いている。</p> <p>・外出の機会が減っているので、併設の事業所へ遊びに行き交流をしたり、移動販売が来た時には買い物をしていたりして社会参加の機会を設けるようにしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>町内会に加入し、環境整備等の町内会行事に積極的に参加したり、広報誌を回覧するなどの取り組みを通し、地域に事業所の存在が広く認識されている。今年度はコロナ禍で自粛しているが、例年は地域の運動会への参加や小学校の運動会や地区内の神社の祭りへの参加などの交流も活発に行われている。敷地内の菜園ではトマトやキュウリ、カボチャ、スイカ、里いも、ネギなどを栽培し、長い期間収穫を楽しむことができる。隣接して短期入所生活介護と通所介護、居宅介護支援の事業所が併設されており、車両や入浴時の機械浴の活用、災害時の共同での支援体制が構築されている。重度化した際には法人内の特別養護老人ホームと連携し、最後まで穏やかに過ごせるように配慮している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職、異動職員にはオリエンテーションで理念について説明し、職員の目につく所へ掲示し共有している。又、プラン作成時に、できることを引き出せるような支援について検討し、昔の経験を活かした役割を持って過ごせるように支援している。	事業所の理念はホールに掲示し、「持っている力」を大切にすることを常に意識してケアに当たっている。職員会議の折に管理者から説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の草取りや環境整備に参加することで交流を図っている。ホームの広報誌を町内会の世帯に配布している。	今年度はコロナ禍で実施していないが、小学校の運動会、神社の祭り等に参加している。早朝の町内会行事にも業務として職員が参加している。行事参加や回覧板等を通じて地域に事業所の存在が周知されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でメンバーと一緒に認知症の勉強会を行い、学ぶ機会を設けている。また、入居者様と交流会を企画したり、文章を配布して普段の生活の様子を伝え認知症について知ってもらうようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に運営推進会議を開催し、参加者より意見をいただき、サービスに活かすようにしている。現在は感染症対策のため、会議は開催せず文章方式にて報告し、意見をいただく方法を取っている。	感染拡大防止のため、会議は参集せず資料を配布する方法で会議を開催している。家族からは面会の際に意見をもらい、地域包括支援センターからはFAXでコメントを得ている。	議案についてポイントを絞って書面で返答を求めると、すべての参加者から意見聴取ができるよう工夫されたい。評価への取り組みも、内容を報告することで、会議の有効活用につなげて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に包括支援センター職員に参加していただいている。会議以外にも報告や相談をして意見を求め、ケアに活かしている。	会議開催時には意見やアドバイスを受けている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止について、情報提供を随時受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議を開催し、ホーム内の各箇所に身体拘束に繋がるところはないか、検討している。又、スピーチロックによる行動の抑制にならないよう勉強会を行い、普段から意識して声掛けするようにしている。	職員同士で気になる言葉かけや対応があれば、その都度管理者に報告し、毎月の会議で検討材料とし具体策を検討している。事業所単独で身体拘束対策委員会を設置し、3か月ごとに会議を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修に参加し、周知するようにしている。内部研修を行い、不適切ケアや虐待がないか会議の際に意見を出し合い見過ごされることがないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者様はいないが、外部研修へ参加し制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に、ご家族へは十分に説明を行い、了解を得るようにしている。面会時や電話連絡にて話し合うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への出席依頼を全入居ご家族にしており、内容の報告もしている。又、ご家族が来所された際には職員からも普段の様子を伝えるようにしており、ご家族からの意見や要望を伺うようにしている。	意見箱を玄関に設置し、重要事項説明の際にも外部の相談窓口があることを説明している。家族の面会時には意識的に意見をうかがうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催している職員会議で意見交換する機会を設けている。欠席者からは事前に意見を聞き取り、会議の場で検討している。管理者は各事業所の代表が集まる会議へ出席し、報告や相談をしている。	職員会議で出された意見は、同敷地内の他事業所の管理者と法人側が参集する会議で報告されている。総務部長が事業所を来訪する機会もあり、職員と直接対話をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は、定期的に職員からの意見を面談やアンケート等から現状を把握し、職員の向上心を損なわない環境作りに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加をするように努め、職員会議の際は、勉強会を行うことでスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの合同行事を行い、交流を図っている。又、他事業所のグループホームとも合同行事を行い、交流や情報交換する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様やご家族と話し合い、情報を得ることで状況の把握に努めている。入居者様の要望を聞き取り、なるべく沿ったかたちの支援をするようにして関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居直後にはこまめにご家族と情報共有をするように努め、不安や、要望を聞き取り良好な関係を築けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況把握に努め、ご家族とも相談しながら、都度支援方法等を一緒に検討するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ができる家事は一緒に行い、役割を持って日常生活を送って頂くことで支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントの協力をご家族にお願いしたり、面会時に軽作業を手伝って頂く等、協力を仰いでいる。また、ケアプラン立案時にはご家族からの要望を聞き取り、意向を取り入れたプラン作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、親戚、友人の面会や、かかりつけ医への受診、自宅への外出や外泊をしている。また、地域の神社や出身校へ出かけて行っている。令和2年度は飛沫防止シート越しでの面会を実施している。	家族の協力を得て、入居前からのかかりつけ医の受診や希望する場所への外出ができるよう支援している。コロナ禍で現在は控えているが、ドライブを兼ねて、それぞれが慣れ親しんだ場所へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルがみられることも時々あるが、職員が関わり過ぎず、さりげなくサポートする形で関係作りを行っている。また、ご家族へも相談してアドバイスしてもらうこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退居後の相談に応じ、入居様やご家族が過ごせるように助言している。サービス終了後も、時々電話や訪問されるご家族もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中でできる範囲での支援をするように努めている。リスク対策をしながら、本人が納得できる方法を検討して、個別に対応している。	本人から直接話を聞いたり、普段の会話の中から把握している。困難な方は家族から好んでいたものや子供のころの話などを聞き、普段の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活パターンを把握した上で、定期的なアセスメントを行い希望や意見を取り入れて支援している。又、日常会話からの情報を職員間で共有して支援に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援経過記録に1日の様子や、行った作業の記録を残すようにし、朝・夕の申し送りで職員間で情報の共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時は入居者様やご家族から意向を聞き取りし、カンファレンスの場で検討した上でケアプランに反映させている。できることは無理のない範囲で継続できるように支援している。	ケアプランは半年ごとに見直ししている。家族から事前に意向を聞き、カンファレンスの際に職員で共有している。法人内の理学療法士、作業療法士や管理栄養士からアドバイスをもらうこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月末に1ヶ月の様子をまとめ、評価している。まとめから見えた状態変化に応じてプランの再検討等を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	望むことや、できることをどのような形で支援すれば実現できるかを検討し、実施するようにしている。時には、ご家族からも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や市のイベントに参加したり、近所のスーパーへ買い物に行ったり、週に1回程度来る訪問販売を利用して資源の活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用していた病院を継続するようにしている。また、ご家族にも受診対応の協力を得たり、相談したいことがある時には、ご家族に受診時に同席していただくこともある。	受診は基本的に事業所に対応し、希望があれば家族も同席している。行動障害の対応等について、主治医に相談することもある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護職員に相談し、助言を頂いたうえで受診を検討するようにしている。かかりつけの病院に連絡をし、指示を仰ぐ場合もある。又、機能訓練指導員からリハビリの指導を受けることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の際は、普段から状態を細かく伝えるようにしている。また、入院時にはご家族と密に連絡を取り合うようにし、病院の地域連携室へ相談し情報共有に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り最期までホームで過ごしていただけるようにケアの方向性について職員間で検討している。また、普段から状態が変化した際にはご家族に報告するようにしており、ホームでできないことについての説明をし、その際の他の支援等について事前に相談するようにしている。	経口摂取が可能な限りは事業所で生活することができる。家族の意向は入居時に確認し、入居と同時に特別養護老人ホームへの入居申し込みを希望する方が多い。状態変化がみられる際は、主治医から家族へ説明をしている。	重度化した際の指針を整備し、事業所としての方針を明確にするとともに、職員への教育や定期的な家族の意向確認等を行なうことで、医療面だけでなく、本人の生活に主眼を置いた支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や訓練を行い、周知・徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会による全事業所合同の防災訓練を実施している。その他、避難誘導訓練、自然災害時の避難ルートの確認を行っている。また、地域の消防団の連携も図っている。	消防立ち合いは年1回、敷地内の事業所合同は3か月ごと、他の月は事業所単独で、毎月訓練を実施している。緊急時の連絡網に、町内の消防団の方に加わっていただいている。訓練の際には電話で内容を報告している。災害時の備蓄は事業所独自に1週間分程度を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護や不適切ケアについて現状の確認をしている。又、個別の支援方法を検討し、入居者様の意思に寄り添った支援に努めている。個人情報の取り扱いにご家族からも同意を得、配慮している。	普段から言葉かけに留意し、不適切な対応等がなかったか、毎月の会議で話し合いを行っている。該当する事例があれば、管理者と面談を行ない、気付きを促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中から入居者様の思いを聞き取り、実現できる方法について時にはご家族を交えてリスクについても相談しながら行うようにしている。入居者様が決定しやすいように選択肢を簡潔にし、一緒に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のタイムスケジュールはあるが、入居者様の拒否があった時などは時間をずらしての対応や、翌日以降に持ち越す等している。職員間で情報共有をして、入居者様のリズムに合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長年利用していた美容室へご家族の協力を得ながら通うようにしている。愛用のシャンプーやせっけん等も継続して使用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で収穫した野菜や旬の食材を取り入れ、入居者様には下ごしらえを一緒に行っていただいている。季節の行事にちなんだメニューや誕生日の夕食は誕生者の好きな物を提供しお祝いするなど工夫している。	入居者には野菜の下ごしらえや食器洗い、茶わん拭きを担ってもらっている。献立は事業所独自で作成しており、菜園の野菜を献立に取り入れている。誕生日の方に食べたいものを聞き、当日のメニューにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の嗜好に合わせて、3回の食事の他にも間食で補ったり、水分は好きなもので摂ったりし、無理なく摂取できるようにしている。摂取能力に応じて刻み食やミキサー食の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、義歯洗浄を行っている。自力で行うのが難しい方にはスポンジやガーゼで拭きとりしている。その他、唾液の分泌を促すための口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	落ち着きがなくなったらトイレ誘導の声掛けをしてみたり、排泄チェック表で確認をして時間を見て誘導したりと、なるべくオムツに頼らずに排泄できるようにしている。	一人一人の排泄パターンを確認し、しぐさや表情でサインをキャッチしている。自室とトイレが離れている方には夜間ポータブルトイレを使うなどし、おむつ以外での排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に体操をし、乳飲料を提供している。また、整腸作用がある食材をメニューに取り入れたり、間食に乳製品を取り入れたりしている。コントロールが難しい方は主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	湯温の好みや習慣を把握し、対応している。週2回入浴できるようにスケジュールは組んでいるが、体調や気分に合わせていつでも入浴できるようにしている。	介助はマンツーマンで行ない、本人のペースでゆったり入浴している。事業所の浴室での入浴が困難になった際は、併設のデイサービスセンターの座位機械浴を使用し、無理なく入浴できるよう調整している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での環境になるべく合わせるようにし、寝具も自宅で使っているものを持ってきていただくようにしている。読書をされる方や、ラジオを聴かれる方など、それぞれ過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容に変更があった時には、職員間で情報を共有している。個人ファイルに薬の説明書を添付し、薬ケースにコメントをつけて分かりやすく確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえ、片付け、裁縫、書道、園芸等、得意な作業の協力を得ている。おやつのお購入については、訪問販売で見て選んで購入していただいている。月に1回の行事を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日には敷地内で外気浴を行っている。現在は感染症対策の為、実施できていないが、市内ヘドライブに出かけたり、買い物や外食に出かけたりしている。家族の協力を得て、自宅へ行く事もある。	コロナ禍で現在は控えているが、併設のデイサービスセンターの車両を使用し、日常的に外出できる。湖や隣町の白鳥飛来地に出かけたり、行事以外でもその日の希望で出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は金庫で管理しているが、必要時には本人が財布を持ち、金銭のやり取りをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をかけて会話を楽しんでいる。感染症対策により、外出やホームへの立ち入りを控えていた際には、ご家族からお手紙を書いていただいて入居者様へ渡している。年末には年賀はがきを作成している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内に咲いた花を玄関やトイレに飾ったり、制作したものや行事の写真を掲示して季節を感じられるように工夫している。入居者様がくつろげるように、明るさや温度、定時の換気にも配慮している。	ホールは広くゆったりとしており、採光もよく明るい。キッチンとの仕切りはなくオープンであるため、調理時の音や香りが楽しめるほか、準備等にも参加しやすい雰囲気がある。菜園に力を入れており、初夏から晩秋まで収穫を楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の随所に椅子やソファを設置し、好きな時に気兼ねなく利用できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使っていた馴染みのある物を持ってきていただくようにしている。入居者様が自宅で過ごしていた雰囲気に近付けるようにベッドや家具の配置にも配慮している。思い入れがあるものなどを自由に飾って頂いている。	ベッドは備え付けだが、寝具は好みのものを使用してもらっている。持ち込みは多くはないが、写真や本人の制作物を飾り付けることで、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLに合わせた居室の配置や、寝具の選定をしてなるべく自力でできるように工夫している。転倒リスクが高い方は目が届きやすい居室へ移動していただき、事故防止に努めている。		